

北海道高齢・退職者連合結成20周年記念祝賀会開催される

5月14日、札幌市ホテルKKRで道退職者連合結成20周年記念祝賀会が開催されました。祝賀会には各界の来賓をはじめ連合北海道の役職員、産別代表者、産別退職者会、地区退職者連動の代表約200名が参加し熱気あふれる祝賀会となりました。



道退職者連合は1993年9月21日に加盟組合23団体、会員4万人で結成され昨年9月で結成20周年を迎えましたが、昨年の定期総会で20周年記念祝賀会は2014年5月14日に開催すること決定しました。この間、2003年9月に道退職者連合

結成10周年祝賀会が開催されており、10年一区切りの記念行事になります。

祝賀会の冒頭にこの間ご逝去された第2代会長の森尾昇さんはじめ多くの先輩の皆様にたいして黙祷を捧げました。

そして主催者を代表して上松俊彦会長が挨拶、「結成以来、全道各地で多くの先輩の皆さんの結集で安心と信頼の社会保障制度確立など努力をいただき敬意と感謝を申し上げます。道退職者連合の前段10年は、連合北海道発足時と同様に、「顔合わせ・心合わせ・力合わせ」を基本に親睦を重視し、年金、医療の取り組みが進められました。その後の10年は激動期に年金医療などの改悪が続きました。年金制度の改悪反対や75歳以上年齢で区分した後期高齢者医療制度に反対するなど、大衆運動、行動する道退職者連合になってきました。さらに安倍政権の言動、政治姿勢は目に余る、集団的自衛権の行使変更に対処し暴走に歯止めを」と挨拶しました。

多くの来賓を代表して、連合北海道工藤和男会長、日本高齢・退職者団体の阿部保吉会長、荒井聰衆議院議員、民主党北海道の勝部賢志幹事長からお祝いと激励の挨拶を受けました。

祝杯の音頭は北海道労働金庫の高柳 薫理事長が行い、懇談に入りました。その後、歴代会長と来賓が紹介されました。初代会長小納谷幸一郎顧問、第3代会長の兼古哲郎顧問、第4代大西彰顧問、第5代渡辺健一顧問にたいして盛大な拍手が送られました。

そして、最後の乾杯は道退職者連合の清水史朗会長代行により、参加者へのお礼とこれからの決意が述べられ乾杯し閉会となりました。

なお20周年記念事業として、20年の足跡をまとめた「20年のあゆみ」を発刊しました。